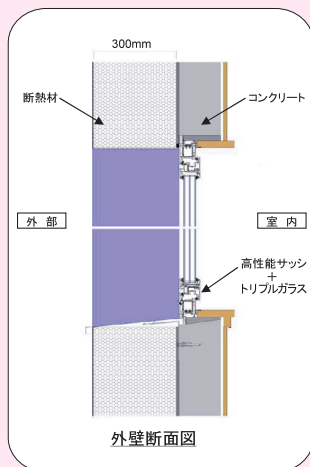


『無暖房』介護施設を 実現したシステム

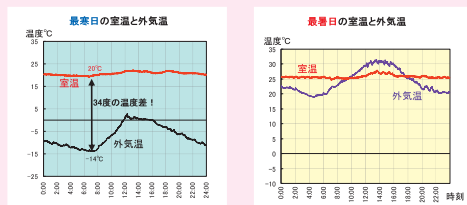
『無暖房』仕様の施設を実現したシステムは、大きく3つの工法の相乗効果となります。桜ハウス玉川は、建物の信頼と安心を実現し、快適な環境をつくりだしています。

『無暖房』実現 RC外断熱工法+高気密・高断熱建具

夏涼しく冬暖かい。しかも室内環境を安定。コンクリートの蓄熱効果を最大限に利用します。



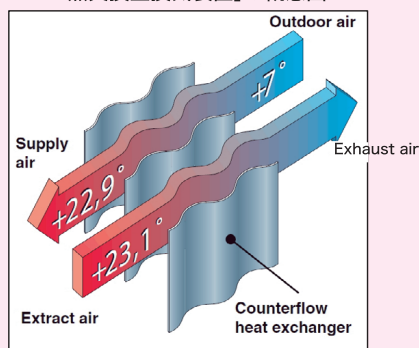
コンクリートの蓄熱効果を最大限に利用した外断熱工法に、最も熱損失の大きい開口部を守る高性能サッシにより、夏・冬共に一日の外気温変化が大きな長野県茅野市でも、室温は驚くほど一定。真冬の外気温マイナス14℃でも、室温は20℃を保持しました。



『無暖房』実現 熱交換型換気装置

臭気対策も兼ねた熱交換型換気装置での計画換気により、快適な居住空間が実現しました。

「熱交換型換気装置」の概念図



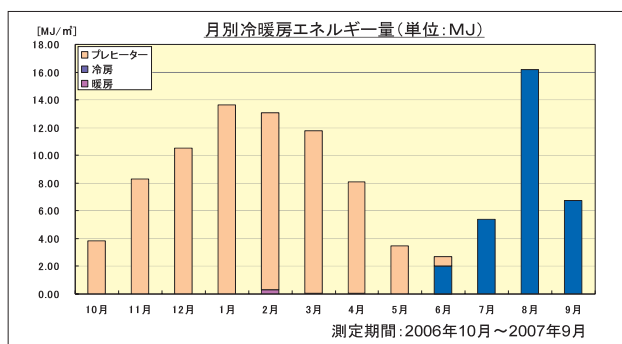
冬の新鮮な空気は7℃と冷たい。換気時に室内の熱を取り入れる事で、暖めなくても22.9℃に。

1年間の冷暖房にかかった電気料は約28万円 灯油換算でも1m²当たり僅か3リットルと超省エネ！

信州大学工学部 山下恭弘教授の監修の下、温度・湿度センサーと電力センサーを敷設。実測の結果、この施設の年間冷暖房負荷は18,858kWhである事が判明。これを1kW=15円で換算すると、年間の冷暖房費用は僅か約28万円と驚異の省エネ性を実現しました。

酷暑の昨年夏、エアコンを全館27℃に設定。
それでも冷房に要した費用は、僅か月2万！

※実測対象床面積は厨房を除いた722.83m²
※プレヒーターとは、熱交換型換気内蔵の補助暖房装置



※『無暖房』工法とは専用の暖房設備を省き、できるだけエネルギーを使わないにもかかわらず、より高い快適性を実現する建築工法を意味します。

SAKURA HOUSE



桜ハウス玉川

- 建物 / RC造2階建
- 敷地面積 / 319.96坪
- 建築面積 / 128.51坪
- 1階床面積 / 117.97坪
- 2階床面積 / 114.52坪
- 延床面積 / 232.50坪
- デイサービス施設 定員25名
- ショートステイ施設定員20名

